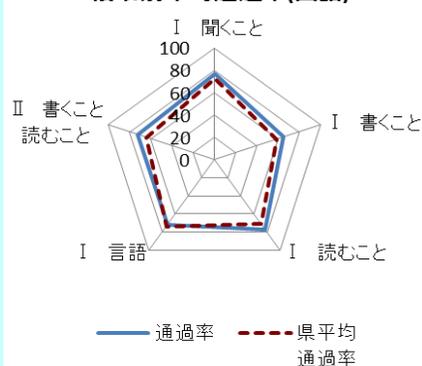


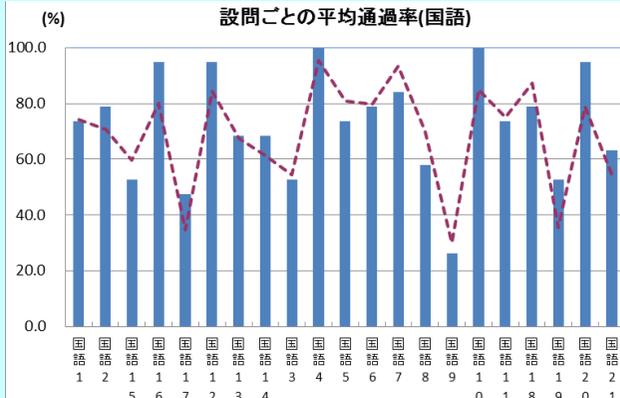
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.7%, 県 69.2%)

領域別平均通過率

領域別平均通過率(国語)



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

国語の結果において、タイプⅠは72.8%、タイプⅡは72.4%の通過率となっている。また、通過率60%以上の生徒が73.3%である一方、30%未満の生徒は0%である、活用力はもちろん、基礎的・基本的な内容についても定着が十分とは言えない。

○昨年度の課題への取組の成果

昨年度は「小学校5学年の漢字が読めない(通過率60.4%)」「根拠に基づいた考えの記述ができていない(通過率53.1%)」という課題に対して漢字練習の仕方や書く活動の取り入れ方を改善した。しかし、「自陣」が正しく読めず通過率52.6%、伝えたい事実の明確な記述に関する2つの問いにおいて通過率52.6%・63.2%と、いずれも低く、改善されていない。

重点課題

【課題1】

・小3の漢字「始動」を、文脈を考えず「指導」と解答した生徒が63.2%、無答5.3%と、文脈を考えて使う漢字を選んでいない。

【大問三1②、通過率26.3%】

【課題2】

・要旨の把握を問う問題において、「具体を挙げて」という条件を踏まえずに解答した生徒が31.6%、キーワードを押さえられていない生徒が15.8%で、キーワードを捉えて問題文の条件を踏まえて要約する力に課題がある。

【大問五2、通過率52.6%】

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

・週に1回の漢字テストだけでなく、土日の漢字練習帳には覚えた漢字を使って文章を書かせるなど練習の仕方を指導する。日常的に分からない漢字は辞書で調べて書かせる。

【課題2】

・授業で書かせるときや、定期テストで書かせるときに条件を与えて書かせる。また、長文を読むときにキーワードを押さええて読むように、キーワードを見つけさせる学習を取り入れる。

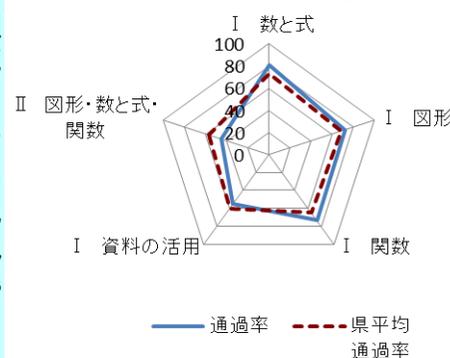
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期期末テスト			1年生 学年末テスト	
目標値			100%			100%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期期末テスト			1年生 学年末テスト	
目標値			80%			80%	
実施後数値							

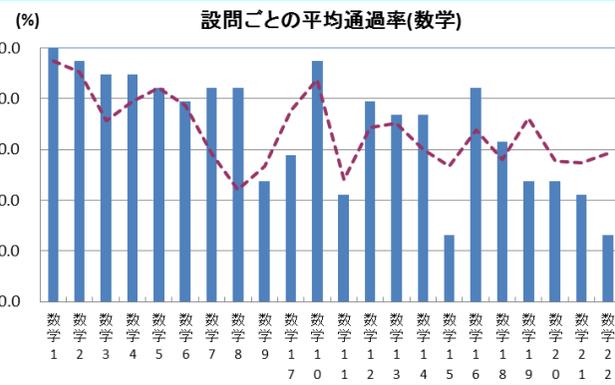
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 68.7%, 県 66.9%)

領域別平均通過率

領域別平均通過率(数学)



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
数学科の結果において、タイプⅠは75.5%、タイプⅡは45.3%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容について概ね定着していると考えられるが、それらを活用する力については定着が不十分である。
領域の中では基礎的・基本的な「数と式」について通過率が81.1%で一番定着率が高かった。
- 昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)
昨年度は、「数と式 (タイプⅠ)」の比較量の数量関係を、文字を用いて表す問題において通過率が31.3%で課題があった。そこで、文字を使う前に具体的な数を用いた問題を扱い、生徒同士で説明させることで理解力を向上させる取組を行った。その結果、「数と式 (タイプⅠ)」の類似問題で、通過率が大きく向上した。(昨年度31.3%, 本年度84.2%)

重点課題

【課題1】

- ・「最頻値の意味」の問題に課題がある。最近1か月に読んだ本の最頻値を求める問題において、最頻値という数学的用語を理解していないため、表の度数をそのまま答える生徒がいた。【大問8 (1), 通過率26.3%】

【課題2】

- ・「解き方の方法を説明する」問題に課題がある。中心角の大きさを求める方法を文章で説明する問題において、通過率は26.3%、無答率は31.6%。与えられた表や式を用いて問題を解決する際に、数学的用語を用いるなどして説明することに課題がある。【大問12 (2), 通過率26.3%】

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ・授業の中で基本的な数学的用語について確認し、その単元の時だけでなく、既習事項を確認できる小テストなどを行い、理解を向上させる。
- ・授業で学習した用語については、生徒同士で自分の言葉で説明させる場面を多く設定し、用語に対する理解の向上をめざしていく。

【課題2】

- ・基本的な計算問題も含め、答えを求めるだけではなく、解き方について自分の考えを文章で書く活動を多く取り入れる。個々の考えを交流する場面を設け、自分の考えを表現する力を向上させていく。

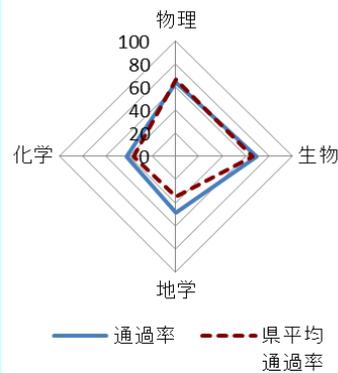
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期期末テスト				1年生 類似問題
目標値			80%				80%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期期末テスト			1年生 学年末テスト	
目標値			70%			70%	
実施後数値							

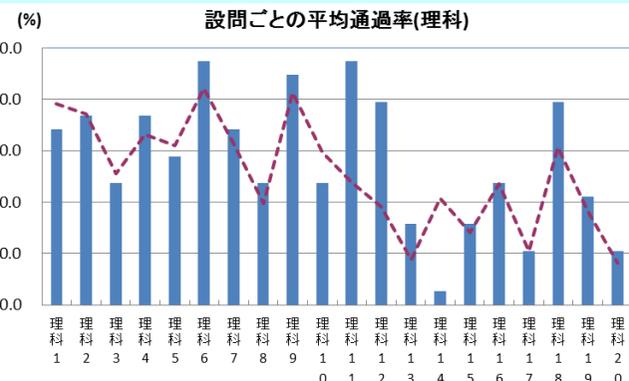
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 56.1%, 県 50.8%)

領域別平均通過率

領域別平均通過率(理科)



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向

・理科の結果において、平均通過率は、56.1%で、タイプⅠは59.2%、タイプⅡは51.3%の通過率となった。この結果から、基礎・基本的な内容について、約6割の定着が図られているが、まだ不十分であり、それらを活用する力について課題が大きい。

○昨年度の課題への取組の成果と課題

・昨年度は、タイプⅠ「力の3要素を理解し、作図ができる。」【観察・実験の技能】に課題があった。そこで、「力とその表し方」の実験を行い、力の働き、力の3要素、力の種類、重力、力の単位、力の表し方、フックの法則などの理科に必要な基本的な用語を正しく理解させる取組を行った。その結果、通過率は47.4%と向上した。

重点課題

【課題1】

・地学領域：「示準化石」地層の生成年代として、古生代、中生代、新生代の第三紀及び第四紀の地質年代を扱い、地層の生成年代の推定に示準化石を用いる力に課題がある。【大問6(1)、通過率5.3%】

【課題2】

・化学領域：物質の融点と沸点：純粋な物質において、固体の量を変化させて加熱した時の温度変化の様子を推測する力に課題がある。

【大問8(2)、通過率21.1%】

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ・野外で化石採集を実際に体験したり、博物館などにおいて実物を観察したりするなどの工夫を行う。
- ・化石の観察を行う時に、その化石がどの時代の地層かという、生成年代を考えさせたり、年代順に並べたりすることを通して示準化石の意味を理解させる。

【課題2】

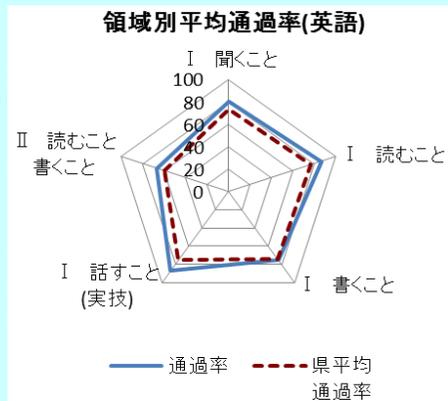
- ・純粋な物質の融点を測定する実験において、パルミチン酸を使用する。この時に、実験を行いながら温度変化の様子をグラフに表し、考察することによって、融点に変化がないことに気づかせる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期期末テスト			2年生 学年末テスト	
目標値			80%			80%	
実施後数値							

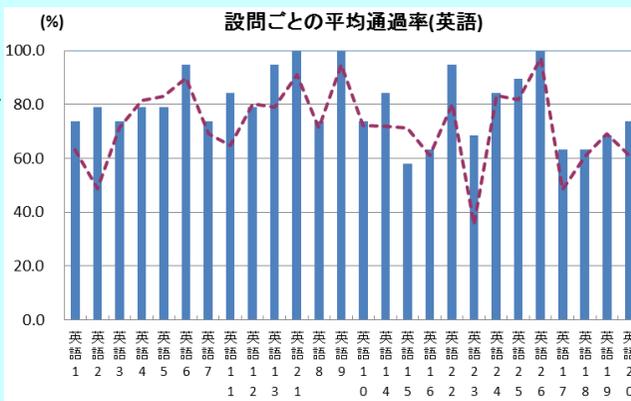
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期期末テスト			2年生 学年末テスト	
目標値			80%			80%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 79.6%, 県 72.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向

英語の結果において平均通過率は79.6%で、タイプⅠは81.8%、タイプⅡは67.1%の通過率となった。また通過率30%未満の生徒は1名だった。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着しているが、学んだ知識を、学習の様々な場面に活用していく力に課題がある。

○昨年度の課題への取組の成果と課題

昨年度は、「根拠となる英文を読み取る力 (通過率48.4%)」に課題があった。そこで、まとまった量の英文と資料を関連させた問題を用意して、必要に応じてヒントを与えて仲間と協力しながら理解を深める課題に取り組ませた。その結果として、本年度の同タイプの問題の通過率は63.2%に向上した。しかし、まだ約40%の生徒が誤答している実態から、十分定着していない、と考える。

重点課題

【課題1】

・「会話の場面に応じて適切に英文を書く」力に課題がある。疑問文の答えが「No, I don't.」になることから、正答を「Do you play (practice) basketball?」と書くところを、疑問詞を用いた英文にするなど、対話文の内容を理解できていない実態がある。【大問10-1, 通過率57.9%】

【課題2】

・「根拠となる英文を読み取る力」に課題がある。「町歩きに行けない」理由を日本語で答える問題で、理由を2つ書く必要があるのに、理由を1つしか書いていない生徒が多く、根拠となる英文を読み取る力の定着が不十分である。

【大問11-1, 通過率63.2%で、その内、準正答率が36.8%】

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

・ALTや高校からのJTEとも連携して、場面・状況に応じた英文を書かせる学習課題を多く設定する事を継続する。具体的には、英語を用いる必然性のある身近な課題を設定し、各単元で学んだ内容・文法事項を使えばできることを実感させて、疑問文や応答文の作り方を定着させていく。

【課題2】

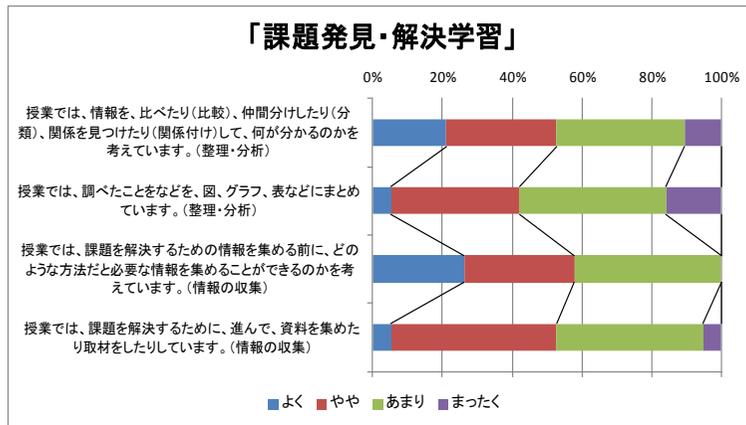
・資料(絵・表・グラフ等)とまとまった英文を関連させた問題を用意して、日頃の授業や定期テストで取りまわせる活動を継続する。必要に応じてヒントや手がかりになる語や文を説明して問題を解かせることを繰り返していく。教師側がすぐ正答を説明するのではなく、ペアや班内で自分の考えや予想を説明し合う「学び合い」活動を取り入れて、英文理解を深めるようにする。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期 期末テスト (類似問題)			1年生 学年末テスト (類似問題)	
目標値			90%			80%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 2学期 期末テスト (類似問題)			1年生 学年末テスト (類似問題)	
目標値			80%			75%	
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

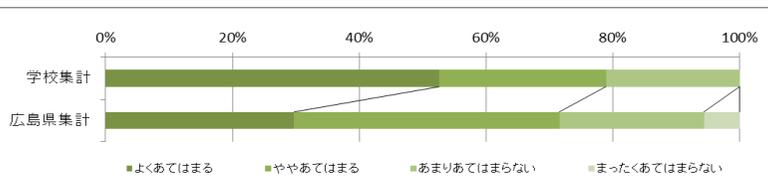
(1) 生活・学習



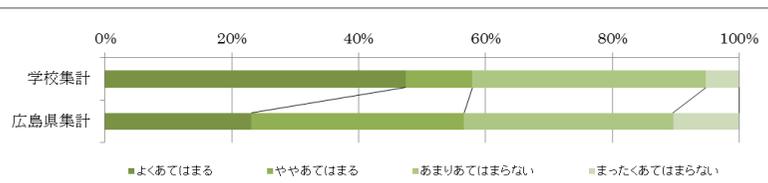
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
課題発見・解決学習の項目の多くが肯定的評価 50%以上であるのに対し、「授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。」についてのみ、肯定的評価 42.1%であった。授業において、情報の整理・分析手段として、情報を資料化する学習が不足していると見ることができる。	資料の読解・解釈・分析・表現の力を向上させるため、各教科又は他教科との関連において、情報を図、グラフ、表などにまとめ、表現する活動を授業に取り入れる。また、逆に、資料から情報を読み取り、表現させる課題を作成し、反復的に取り組ませることも行っていく。	2	60%	アンケート	12月		

(2) 教科

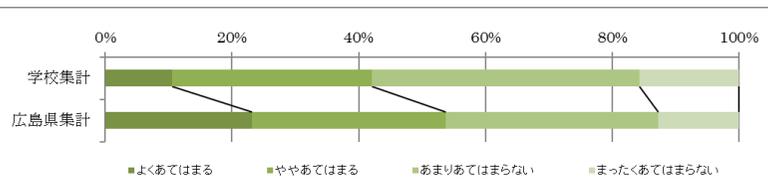
国語の授業では、段落と段落のつながりや文章全体の組み立てに注意して文章を読んでいます。



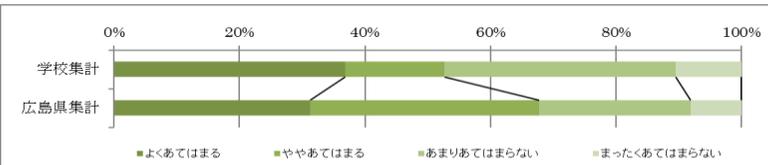
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、書き手の伝えようとするところが何かを考えて読んでいます。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、段落と段落のつながりや文章全体の組み立てに注意して文章を読んでいます。」の肯定的回答が78.9%であった。	段落どうしのつながりや文章全体の組み立てを意識させるために、文章全体を一目で見られるワークシートなどを用いる。	2	90%	アンケート	12月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」の肯定的回答が57.9%であった。	授業で「学び合い」を取り入れ、相手に説明をする場面を設定する。その際に必ず理由を述べるようにさせる。また、テストにも説明させる問題を出題していく。	2	80%	アンケート	12月		
理科	「自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」の肯定的回答が42.1%であった。	班での学習からさらに少ない人数での「学び合い」の学習を取り入れ、相手に説明をする場面を設定する。その際に必ず理由を付けて説明・発表させる。	2	80%	アンケート	12月		
英語	「物語や説明文で書き手の伝えようとするところが何かを考えて読んでいます。」の肯定的回答が52.6%であった。	英文を読んだ後、自分の考えや予想を仲間や集団に説明し合う「学び合い」の授業形態を多く取り入れ、授業や定期テストで表やグラフ等と関連させた英文に取り組ませる中で、定着を図る。	2	80%	アンケート	12月		